



認証番号 0003625

# 環境経営システム エコアクション 21

## 環境経営レポート



成光運輸株式会社

令和2年度版（令和2年7月1日～令和3年6月30日）

令和3年12月20日発行

## 目 次

- ①組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.2
- ②環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.3
- ③認証・登録対象範囲及び実施体制・・・・・・・・P.4
- ④過去の環境負荷実績・・・・・・・・・・・・・・・・P.5
- ⑤環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.9
- ⑥令和2年度環境経営目標と取組内容及び結果評価・・・・・・・・P.10
- ⑦環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無・・P.17
- ⑧代表者による全体の評価と見直し・指示・・・・・・・・P.17

## ①組織の概要

事業所名	成光運輸株式会社
代表者名	代表取締役 飯沢 宗光
所在地	〒193-0931 東京都八王子市台町三丁目 27 番地 19 号
連絡先	TEL : 042-624-7530 FAX : 042-623-0812
環境管理責任者名 及び連絡先	飯沢 由里香 E-mail : iizawa0524@bb.wakwak.com ※環境に関する連絡のみのメールアドレスですので、 ご注意ください。
事業活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●限定区域貨物自動車運送事業 (昭和 40 年 12 月 13 日許可 65 東陸自 2 貨 1 第 2451 号)</li> <li>●一般区域貨物自動車運送事業 (昭和 59 年 4 月 4 日許可 84 東陸自 2 貨 2 第 526 号) (平成 11 年 6 月 17 日許可 関自振第 1757 号)</li> <li>●自動車運送取扱事業 (平成 2 年 10 月 25 日登録 関運自登第 12548 号)</li> <li>●軽車両等運送事業 (昭和 60 年 4 月 8 日届出)</li> </ul>
創 立	昭和 40 年 12 月 20 日
資 本 金	1,000 万円
従 業 員 数	20 名
敷 地 面 積	722 m <sup>2</sup>
事 務 所 面 積	70 m <sup>2</sup>
倉 庫 面 積	70 m <sup>2</sup>
売 上 高	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 30 年度 : 230 百万円</li> <li>●令和元年度 : 225 百万円</li> <li>●令和 2 年度 : 207 百万円</li> </ul>
保有車両数	21 台 4 トン車 (ウイング型) …4 台、4 トン車 (平ボディ型) …1 台、 3.5 トン車 (平ボディ型) …1 台、3 トン車 (平ボディ型) …1 台、 2 トン車 (ウイング型) …1 台、 2 トン車 (バン型) …10 台 (内、1 台パワーゲート付)、 軽貨物車…1 台、乗用車…2 台

## ②環境経営方針

### 基本理念

成光運輸株式会社は、創業から半世紀に亘り、関東首都圏を中心とした運輸業を営んでおり、環境問題が 21 世紀の世界共通の課題であることを深く認識しています。輸送事業者としては、守るべき基本的ルールである法令順守は当然のことですが、公共の道路を利用して事業を営んでいるほか、環境や安全にも多大な影響を及ぼしていることから、より環境問題に積極的に取り組むべき社会的責任が求められています。

また国内貨物輸送の約 9 割はトラック輸送が担っていますが、近年「ドライバー不足」やこれに伴う「ドライバーの高齢化」が課題となっています。

これからの成光運輸株式会社は、人と地球にやさしい環境づくりに貢献するための環境保全と安全輸送を強化し、更には全従業員の健康維持増進を図る健康経営に取り組み、事業継続経営 100 年をめざしていきます。

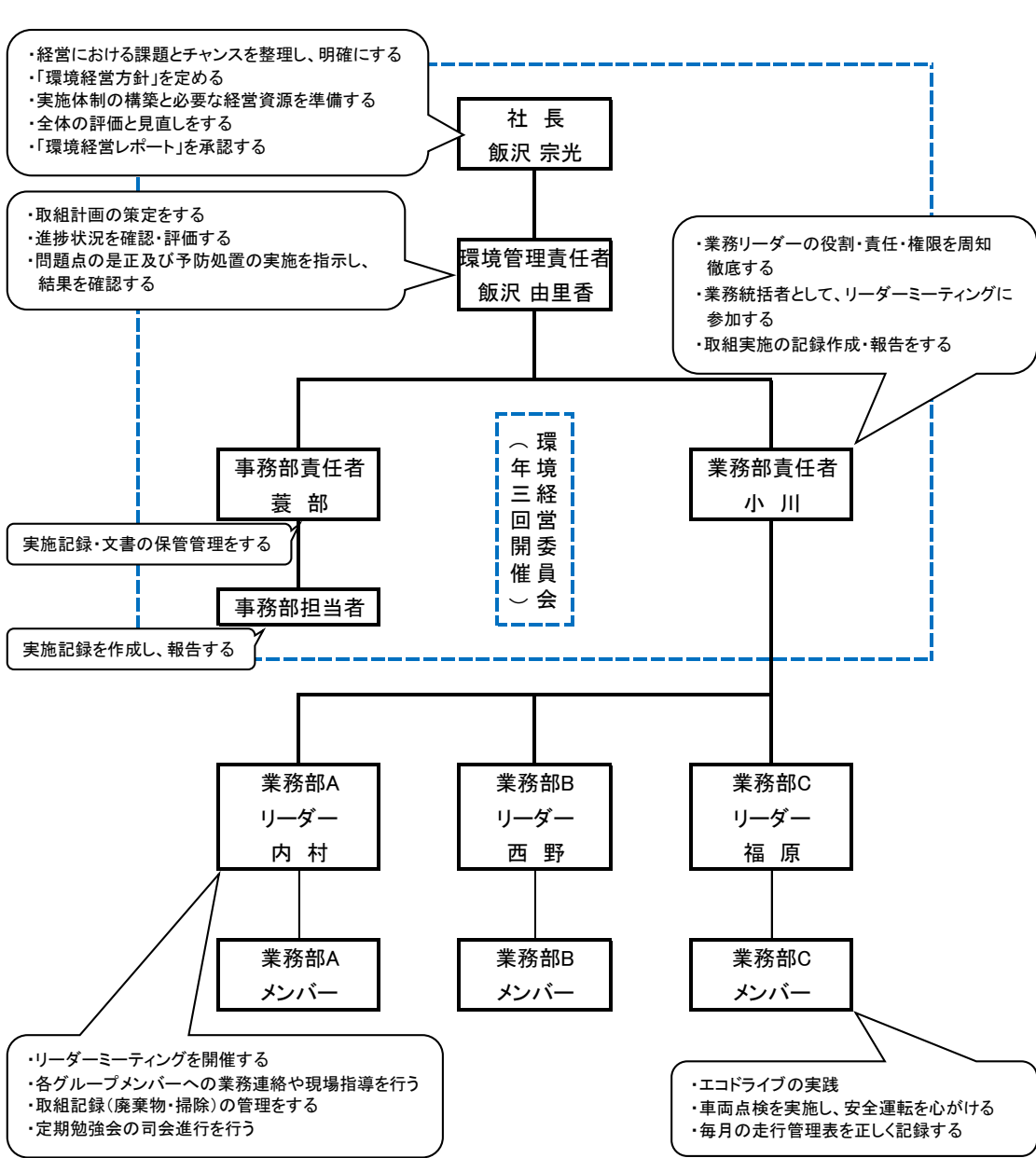
### 方針

1. 環境経営システムを構築・運用し、環境経営に積極的に取り組むことにより、継続的な環境負荷の削減に努めます。
2. 当社に適用される環境関連の法規制等を遵守します。
3. 当社の事業活動を踏まえ、重点的に以下の環境経営活動に取り組みます。
  - ① 電気使用量の削減
  - ② 水使用量の削減
  - ③ ガス（LPG）使用量の削減
  - ④ 車両燃費の向上
  - ⑤ 自社排出廃棄物の削減
  - ⑥ エコ製品の積極的購入
  - ⑦ 地域貢献活動の実施
4. この環境経営システムの機能を効果的・効率的に推進していくために、社内の実施体制を確立し全従業員への環境教育に努めます。また、全従業員が健康への自己管理ができるような健康教育に努めます。
5. この環境経営方針を達成するために、環境経営目標を設定し、定期的に見直し、環境経営改善に努めます。

平成 30 年 7 月 1 日 成光運輸株式会社  
代表取締役 飯沢 宗光

### ③認証・登録対象範囲及び実施体制

- ・取組の対象は、当社の全組織とする。
- ・環境経営システムを構築・運用し、環境経営への取組を効果的に実施推進するための組織図及び各員の役割を定める。



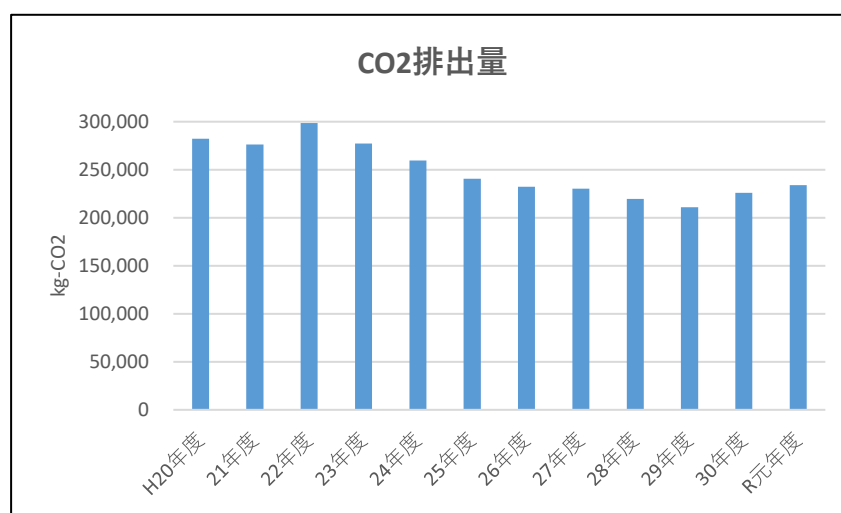
#### ④過去の環境負荷実績

【「エコアクション 21」開始以降 12 年間の二酸化炭素排出量の推移について】

##### ●二酸化炭素排出量（平成 20 年度～令和元年度）

CO2 排出量	単位	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
	kg-CO2	282,405.47	276,228.62	298,537.45	277,183.31
CO2 排出量	単位	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
	kg-CO2	259,435.14	240,556.62	232,121.40	230,275.55
CO2 排出量	単位	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
	kg-CO2	219,494.93	210,847.51	225,816.78	233,961.31

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.496（H26 年度実績調整排出係数）を使用

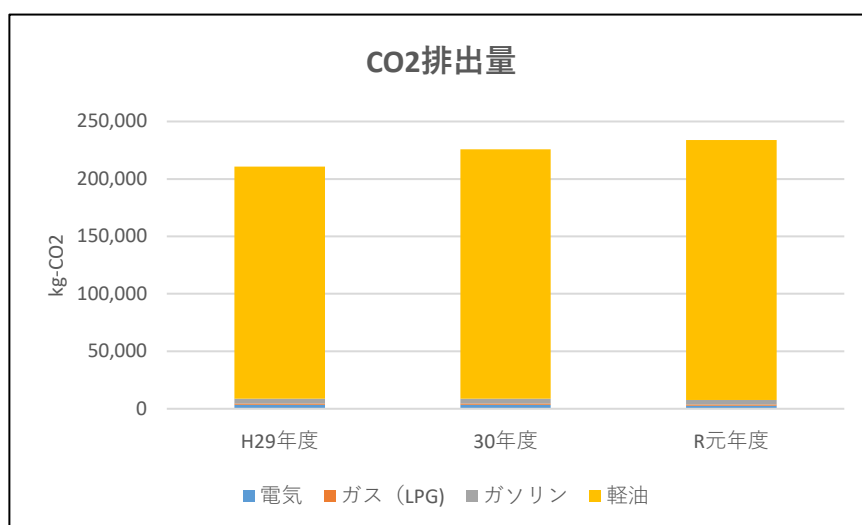


【過去 3 年間（平成 29 年度～令和元年度）の重点的取組 7 項目の実績について】

##### ●電気・化石燃料使用量及び二酸化炭素排出量

項目		単位	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
電気	使用量	kWh	6,984	7,053	5,429
	CO2 排出量	kg-CO2	3,464.06	3,498.29	2,692.78
ガス (LPG)	使用量	kg	371.36	328.10	373.22
	CO2 排出量	kg-CO2	1,114.07	984.29	1,119.66
ガソリン	使用量	ℓ	1,846.19	1,823.24	1,651.13
	CO2 排出量	kg-CO2	4,283.16	4,229.92	3,830.62
軽油	使用量	ℓ	78,289.23	84,148.95	87,720.25
	CO2 排出量	kg-CO2	201,986.21	217,104.29	226,318.25
CO2 排出量合計		kg-CO2	210,847.51	225,816.78	233,961.31

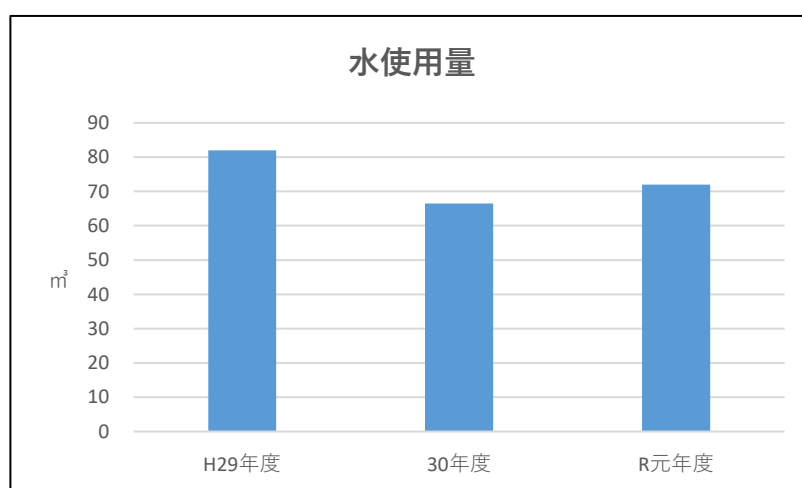
※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.496（H26 年度実績調整排出係数）を使用



CO2 排出量の 95%以上が、トラック燃料の軽油使用によるものである。  
この3年間トラック保有数は変わらないが、毎年走行距離数が増えたために軽油使用量が増え、CO2 排出量も増加した。

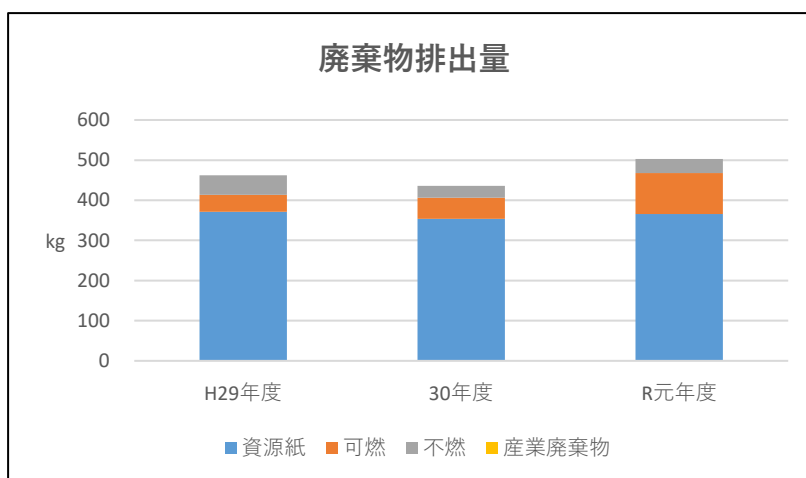
### ●水使用量の削減

項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
水使用量	m <sup>3</sup>	82.0	66.5	72.0
総排水量	m <sup>3</sup>	82.0	66.5	72.0



## ●廃棄物排出量の削減

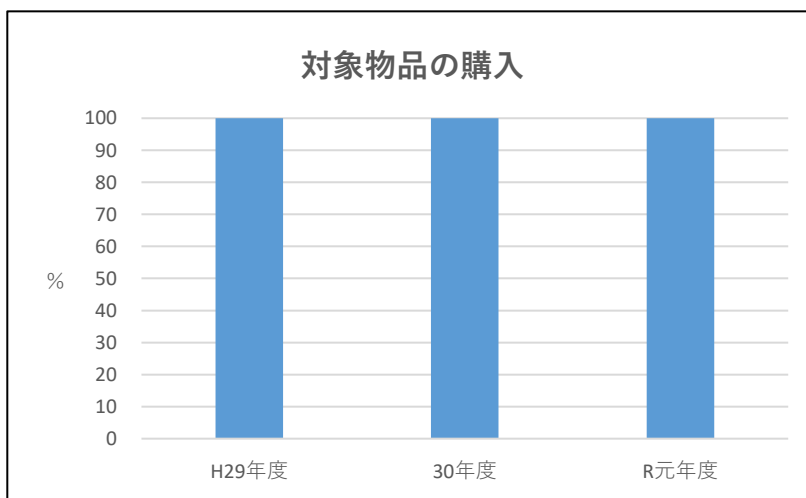
項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
資源紙ごみ	kg	371.2	353.6	366.0
可燃ごみ		42.7	52.5	101.6
不燃ごみ		48.2	29.7	35.2
廃棄物総排出量	kg	462.1	435.8	502.8



令和元年度は、倉庫内の片付けにより、可燃ごみが増えた。  
資源紙ごみの含有率は、毎年 70%以上を占めている。

## ●エコ製品の積極的購入

項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
対象物品の購入	%	100	100	100

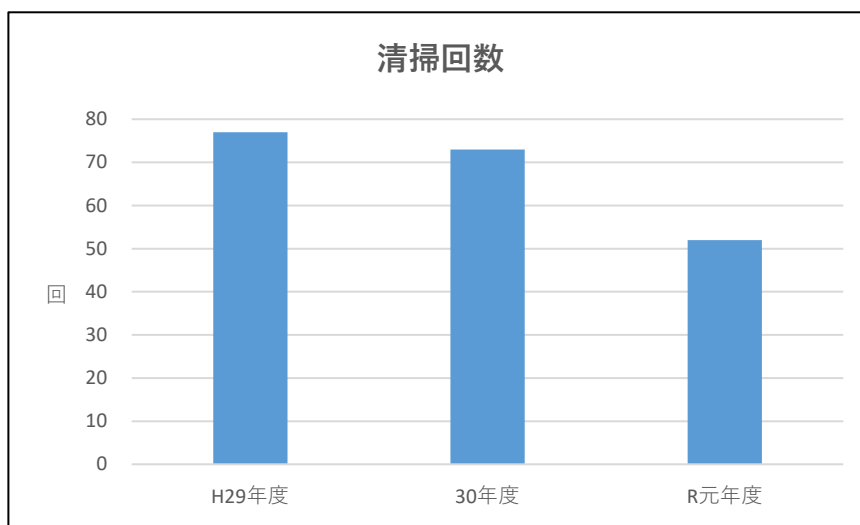




対象物品は、事務用品（コピー用紙等紙製品、文具類）、チャート紙（運行記録紙）、ティッシュペーパー等の日用紙製品、コピー機である。

### ●地域貢献活動の実施

項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
施設周辺の清掃回数	回	78	73	52
		(6 回/月)	(6 回/月)	(4 回/月)



地域貢献活動として、施設周辺（事業所前の公道や隣接水路等）の清掃をしている。令和元年度は、前年より清掃回数が減ったが、何とか目標の月4回を実施した。

## ⑤環境経営目標

・重点的取組7項目の環境経営目標について述べる。

項目	基準年	環境経営目標		
	平成28年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
電気使用量の削減	6,454kWh/年 538kWh/月	H28年度比 7%削減 500kWh/月	H28年度比 8%削減 495kWh/月	H28年度比 9%削減 490kWh/月
水使用量の削減	79.5 m <sup>3</sup> /年 6.6 m <sup>3</sup> /月	H28年度比 1%削減 6.5 m <sup>3</sup> /月	H28年度比 1%削減 6.5 m <sup>3</sup> /月	H28年度比 1%削減 6.5 m <sup>3</sup> /月
ガス(LPG)使用量の削減	170.4 m <sup>3</sup> /年 14.2 m <sup>3</sup> /月	H28年度比 1%削減 14.1 m <sup>3</sup> /月	H28年度比 1%削減 14.1 m <sup>3</sup> /月	H28年度比 1%削減 14.1 m <sup>3</sup> /月
車両燃費の向上	燃費 6.71km/ℓ 軽油使用量 81,860.31ℓ/年 走行距離 549,482km/年	燃費 H28年度比 2%向上 6.84km/ℓ	燃費 H28年度比 3%向上 6.91km/ℓ	燃費 H28年度比 3%向上 6.91km/ℓ
廃棄物排出量の削減	431.7kg/年 36.0kg/月	H28年度比 1%削減 35.6kg/月	H28年度比 1%削減 35.6kg/月	H28年度比 1%削減 35.6kg/月
エコ製品の積極的購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入
地域貢献活動の実施	施設周辺 月4回掃除	施設周辺 月4回掃除	施設周辺 月4回掃除	施設周辺 月4回掃除

## ⑥令和2年度環境経営目標と取組内容及び結果評価

項目	環境経営目標	実績	評価
電気使用量の削減	500kWh/月	532kWh/月	×
水使用量の削減	6.5 m <sup>3</sup> /月	7.4 m <sup>3</sup> /月	×
ガス(LPG)使用量の削減	14.1 m <sup>3</sup> /月	17.4 m <sup>3</sup> /月	×
車両燃費の向上	燃費 6.84km/ℓ	燃費 6.91km/ℓ	○
廃棄物排出量の削減	35.6kg/月	41.5kg/月	×
エコ製品の積極的購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	○
地域貢献活動の実施	施設周辺 月4回掃除	施設周辺 月5回掃除	○

※評価については、単純評価（目標達成：○ 未達成：× 変化なし：△）とする。

### ●電気・化石燃料使用量及び二酸化炭素排出量

項目		単位	令和2年度
電気	使用量	kWh	6,382
	CO2 排出量	kg-CO2	3,165.47
ガス (LPG)	使用量	kg	433.04
	CO2 排出量	kg-CO2	1,299.13
ガソリン	使用量	ℓ	1,612.32
	CO2 排出量	kg-CO2	3,740.58
軽油	使用量	ℓ	78,359.67
	CO2 排出量	kg-CO2	202,167.95
CO2 排出量合計		kg-CO2	210,373.14

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.496（H26年度実績調整排出係数）を使用


※LPG 1 m<sup>3</sup> = 2.07 kg

令和2年度は、平成29年度以来3年ぶりに二酸化炭素排出量が減少した。

当社においては、CO2 排出量の大半を占めている軽油使用量を減らすことに目を向けないと、CO2 排出量の削減には繋がらない。


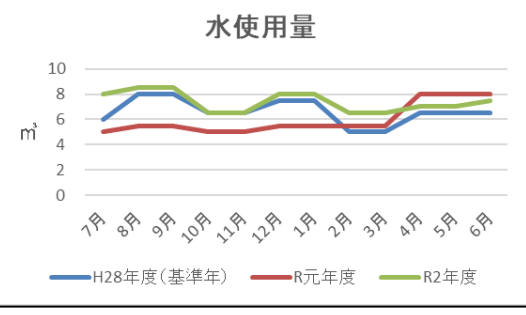
次に、各項目の主な取組内容を紹介し、結果に至った考察を述べる。

### ●電気使用量の削減

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社内の電気をこまめに消す</li> <li>・ エアコン設定温度を冷房 27°C、暖房 22°Cにする</li> <li>・ エアコン使用頻度を減らす</li> <li>・ 退社者が最終消灯チェックをする</li> </ul>	500kWh/月	<b>532kWh/月</b> (6,382kWh/年) 目標値より 6%増加	×
 <p>照度を測定し、必要最低限の照明で始業開始</p>	 <p>昼食・休憩時には照明もからだもスイッチオフ</p>	<b>考 察</b>	
<p>使用量 532kWh/月で、目標達成しなかった。</p> <p>前年度の電気使用量を大幅に削減することができた理由としては、節電タイプの自動販売機への交換が考えられた。しかし今年度開始時期から、予想以上に早朝からの高い外気温が続いた上に、常に新型コロナウイルス感染防止の開窓換気によってエアコン冷房が効きづらく、結果として電気使用量が増えてしまった。また冬期はガス暖房のみを使用していたが、昨今の寒さ（12月～翌2月の暖房前平均室温 7°C前後）にはガス暖房だけでは追い付かず、エアコン暖房も併用し、日中室温 20～21°Cを何とか維持した。年々夏は猛暑、冬は厳寒になっているように感じる。</p> <p>社員の節電実施行動の継続は勿論の事、「エコアクション 21」取り組み開始からこれまで、全照明LED化・エコトイレに交換・内窓や遮熱ブラインド設置等、考えられる節電設備導入を実施してきた。しかし昨今の異常気象に対しては、今後どこまで電気使用量を削減できるのかを自問している。</p> <p>次年度は、目標値を変更し、H28年度比 2%削減の 527kWh/月（6,325 kWh/年）に取り組む。</p>			

### ●水使用量の削減

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水道配管やトイレタンクからの漏洩を確認する</li> <li>・ 洗車時、水量調節レバーを使用する</li> <li>・ トイレ洗浄水は大小区別する</li> </ul>	6.5 m <sup>3</sup> /月	<b>7.4 m<sup>3</sup>/月</b> (88.5 m <sup>3</sup> /年) 目標値より 14%増加	×

 <p>感染症対策をしながら環境対策も実施</p>	<p style="text-align: center;"><b>水使用量</b></p>  <p style="text-align: center;">— H28年度(基準年) — R元年度 — R2年度</p>
--	---




**考 察**

使用量 7.4 m<sup>3</sup>/月で、目標達成しなかった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、令和元年度途中（令和 2 年 3 月～）から社員の手洗いを徹底したことや夏季・冬季休暇前の全トラック洗車を実施したことで、令和 2 年度は大幅に使用量が増加したと考える。洗車方法として水量調節レバーや高圧洗浄機を使用しているが、今後も最少量で洗車する方法を工夫していかなければならない。

今年度の目標値は、H28 年度比 1 %削減の 6.5 m<sup>3</sup>/月として取り組んだが、感染症予防対策の手洗いについては継続すべきことなので、次年度の目標値は H28 年度比同値の 6.6 m<sup>3</sup>/月（79.5 m<sup>3</sup>/年）に変更して取り組む。

**●ガス（LPG）使用量の削減**

取組内容	環境目標	実 績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガストーブ使用頻度を減らす</li> <li>・室温 20℃以下でガストーブを使用する</li> </ul>	14.1 m <sup>3</sup> /月	<p style="text-align: center;"><b>17.4 m<sup>3</sup>/月</b> (209.2 m<sup>3</sup>/年)</p> <p style="text-align: center;">目標値より 23%増加</p>	<b>×</b>
 <p style="text-align: center;">寒さ対策のひざ掛け使用</p>	 <p style="text-align: center;">毎日の室温チェック</p>		

**考 察**

使用量 17.4 m<sup>3</sup>/月で、目標達成しなかった。

今年度の冬季（12 月～翌 2 月）は寒さが厳しかった。早朝入社時の室温がマイナスの時もあり、設定温度 20℃に達するまではガス暖房だけでは間に合わず、エアコン暖房も併用した。



毎日決めた時間の室温湿度チェック表は、のちに前年同月と比較する時には大いに役立っている。



事務所足元の寒さ対策として、各自ひざ掛け使用等で工夫しているが、年齢を重ねるにつれ、寒さを感じやすくなっていることもあるのではないかと思う。

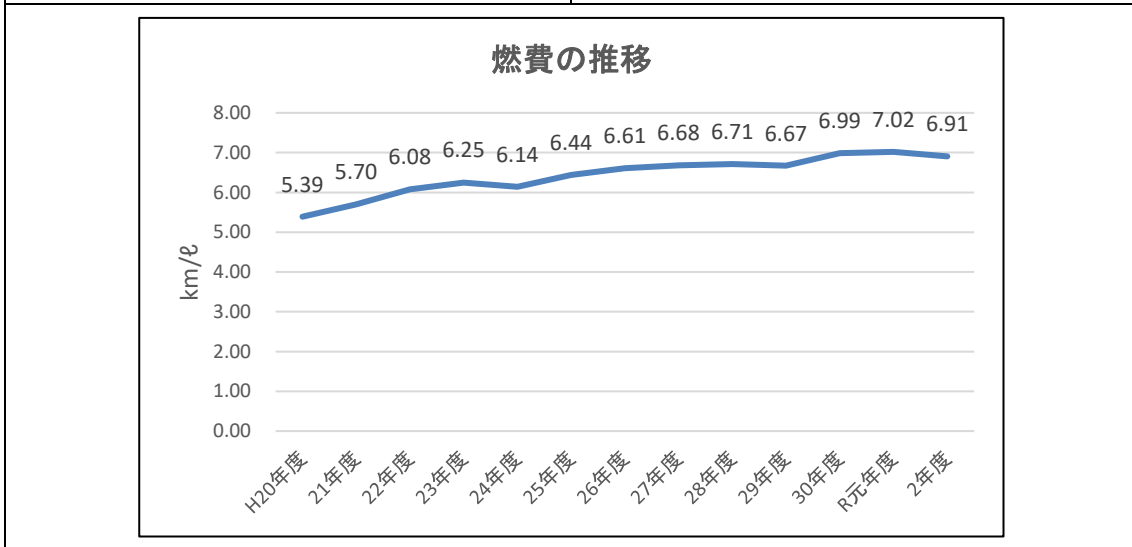
ただ、このガス暖房使用量はその年の気候に大きく左右されるが、従来から取り組んでいる重ね着・ひざ掛け使用等、地道なエコ行動も大切である。

次年度は今年度目標より 0.1 m<sup>3</sup>/月増やし、H28 年度比同値の 14.2 m<sup>3</sup>/月（170.4 m<sup>3</sup>/年）に取り組む。

## ●車両燃費の向上

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自社の「エコドライブ十箇条」(※1)を守る</li> <li>・所属協会のグリーン・エコプロジェクト (GEP) (※2) 参加により、ドライバー自身が走行管理表を記録し、燃費を把握する</li> <li>・燃費結果やアナログ運行記録計から、不適切な走行ドライバーには定期的指導教育を行う</li> <li>・毎月の安全運転教育を実施する。</li> <li>・近距離の移動には徒歩や自転車を利用し、遠距離の移動にはできる限り公共交通機関を利用する</li> </ul>	燃費 6.84km/ℓ	<b>燃費 6.91km/ℓ</b> 軽油使用量 78,359.67ℓ/年 走行距離 541,418km/年 目標値より 1%向上	○
<p>(※1)「エコドライブ十箇条」とは…</p> <p>平成 26 年 5 月、ドライバー全員で自社独自のエコドライブ十箇条を作成した。同年 8 月に実践状況から一部内容改訂を行った。ギアチェンジの適切なタイミング回転数や高速道路走行 80 km/h 厳守など、自社ドライバーが守るべきエコドライブ内容である。</p>			
<p>(※2) グリーン・エコプロジェクト (GEP) とは…</p> <p>「東京都トラック協会では、2006 年に新規事業として地球温暖化防止対策の対応を図るため、独自の CO2 等削減対策を盛り込んだ『グリーン・エコプロジェクト』を立ち上げた。『グリーン・エコプロジェクト』では、車両ごとに収集した燃費からデータベースを構築し、継続的なエコドライブ活動を推進・支援、CO2 排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止等に向けた取り組みを展開している。『グリーン・エコプロジェクト』の最終目標は、経営者・管理者・ドライバーの従業員一人一人が環境意識の向上による社会貢献・社会責任を主軸とした“環境 CSR(環境から進める経営改善)”を目指している。そのために、レベルアップセミナーや講習会を開催して、環境関連資料やドライバーのモチベーションを高める教育資料を提供し、環境問題に能動的に取り組めるよう支援している。このように継続的な活動を行うことで以下の 4 つの改善を図ることができ、“環境 CSR”へとつながっていく。①社内環境の改善 ②交通事故減少 ③コスト削減対策 ④地球温暖化防止対策」(東京都トラック協会 HP より)</p>			
 <p>トラック運送事業者の交通安全対策等の取組みを評価し、一定の基準をクリアした事業所を「安全性優良事業所(G マーク)」として認定公表する制度</p>	<p>令和 2 年度 2 つ星</p>  <p>東京都貨物輸送評価制度とは、都内に貨物を運送する緑ナンバー事業者を対象とし、CO2 削減取組を燃費データに基づき 5 段階評価する制度</p> <p>評価【★、準★★、★★、準★★★★、★★★★】</p>		

 <p style="text-align: center;"><b>走行管理表</b></p> <p>各ドライバーが毎月自身で目標値を設定し、給油のたびに燃費を記録する。月末に平均燃費を計算し、目標値との比較にて走行を振り返りコメントも記入する</p>	 <p style="text-align: center;">安全運転教育の様子（令和2年10月）</p>
--	--



### 考 察

燃費は、目標値(6.84km/l)より1%向上の6.91km/lで達成した。

「東京都貨物評価制度」においても「二つ星」をいただいた。

また、社内年間交通事故ゼロも達成。

軽油使用のトラック保有数は前年まで20台だった。しかし令和2年度は、トラック稼働数の減少によって18台に減車した。減車しても走行距離数や軽油使用量の減少が望めずかつ燃費も低下すれば、CO2排出量の削減は難しくなる。その年の稼働によっては、トラック保有数及び走行距離数や軽油使用量が一定でないため、毎年燃費の推移を見ていくことが大切だと考えた。

燃費向上は、全ドライバーが目標に向かって努力しなければ達成は難しい。当社は毎年燃費目標値を少しずつ上げて取り組んでいる。これは現状維持に満足するのではなく、少しでもCO2排出量を減らすことやプロドライバーとしての自覚、そして安全運転に繋がるエコドライブの技術アップ等を願っているからだ。

また管理者は、日頃ドライバーがエコドライブを含めた安全運転に意識を向け、継続実践できるように教育している。

事故や違反もなく、ゴールド免許で日々業務をこなすドライバーが増えている事は、本当に素晴らしいことであり、事業者にとっても誇りである。

次年度は、H28年度比3%向上の6.91km/lに取り組む。

軽貨物車及び乗用車が使用する年間ガソリン量は、1,612.32ℓであった。  
 軽貨物車や乗用車も、貨物自動車と同様に燃費向上に努め、CO2 排出量削減に取り組んでいる。

●廃棄物排出量の削減

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの分別排出を徹底し、資源化を推進する</li> <li>コピー用紙の裏面使用を徹底する</li> <li>ドリップコーヒー粉は乾燥させ、可燃ごみに出す</li> <li>個人ごみは持ち込み禁止とする</li> <li>一度使用した事務用品や業務備品等の再利用化を図る</li> </ul>	35.6kg/月	<p><b>41.5kg/月</b>                      (497.7kg/年)                      目標値より 17%増加</p>	×



ごみ分別



コーヒー粉の乾燥の様子



リサイクルされる雑紙等



名前付きのファイルで無駄なく効率よく

考 察

排出量 41.5kg/月で、目標未達成。  
 一般廃棄物（可燃・不燃）を減らす工夫をしないと、なかなか排出量削減には繋がらない。  
 毎年新年度が始まる前月には、書庫や倉庫等の整理片付けをするため、他月より廃棄物排出量が増加してしまう。  
 日頃からごみ袋の中身をチェックし、削減課題を見つけている。  
 またペットボトルのキャップを集め、近隣中学校を通じ、エコキャップ運動にも参加しているが、社会貢献や地域貢献にも役立てられていることを願っている。  
 社員への配布物や伝達書類等は、頂いたファイルに名前をつけて毎回再使用している。  
 社員一人ひとりが分別習慣を身につけ、廃棄物削減への行動ができるよう、次年度も H28 年度比 1%削減の 35.6kg/月（427.4kg/年）を掲げて積極的に取り組む。



## ●エコ製品の積極的購入

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコマーク品や再生紙品を積極的に購入し、使用に努める</li> <li>・エコ製品対象物品（紙製品・文房具類）だけに留まらず、日用品についても環境配慮製品を積極的に購入する</li> </ul>	対象物品の100%購入	対象物品の100%購入	○
 <p>エコユニフォーム</p>		 <p>再生紙トイレットペーパーなど</p>	
考 察			
<p>エコ製品 100%購入を達成した。</p> <p>対象物品の紙製品・事務用品だけでなく購入物品全てにおいて、まずエコ製品があるかどうか確認するようにしている。</p> <p>ユニフォーム（ポロシャツ・ブルゾン）については、試験的にエコユニフォームを着用してみたところ着心地も良く、毎年定番となっている。</p> <p>次年度も、対象物品の幅を拡大して 100%購入に取り組む。</p>			

## ●地域貢献活動の実施

取組内容	環境目標	実績	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所前公道や排水路を 月 4 回掃除する</li> <li>・水辺の水護り制度(※3)に登録し、水路保全活動を実施する</li> <li>・地域住民との対話を心掛ける</li> </ul>	施設周辺 月 4 回掃除	施設周辺 月 5 回掃除 (69 回/年)	○
<p>(※3) 水辺の水護り制度とは…</p> <p>八王子市が管理している公園や緑地、道路等を町会・自治会、市民グループ、学校、企業等の 5 名以上の団体（水辺の水護り制度は個人も可）を対象とし、清掃や除草等のボランティア活動を実施する申請登録制度（八王子市公共施設アドプト制度）である。このようなアドプト制度には、公園アドプト制度、道路アドプト制度、水辺の水護り制度がある。</p>			



考 察

事業所前の公道や側溝、西側水路（60m）の清掃を平均5回/月 実施できた。  
 水路内には落葉だけではなく、公道から捨てられたごみや煙草の吸殻等がある。清掃後、すぐにまた捨てられているごみを見つけると、公德心のない人の行動をととても残念に思う。  
 「きれいで住みよいまちづくり」を願い、次年度も施設周辺掃除 4回/月（48回/年）に取り組む。

⑦環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の該当する要求事項を整理し一覧表にまとめ、毎年定期的に遵守状況の確認及び評価を実施している。

令和2年度は、令和3年6月30日に確認し、評価結果は「適合」であった。違反・訴訟は無く、近隣住民からの苦情も無い。

⑧代表者による全体の評価と見直し・指示

今年度の重点的取組7項目のうち、残念ながら4項目（電気使用量の削減、水使用量の削減、ガス使用量の削減、廃棄物排出量の削減）が未達成となった。しかし、環境経営システムエコアクション21の取組から13年を経過した現在も順調にサイクルをまわし、部署ごとに環境配慮への努力を惜しまず取り組んでいると評価している。

最も地球温暖化を増強させる二酸化炭素排出量については、全排出量の95%以上を占めている貨物自動車燃料の軽油使用量をいかに減らすかが鍵となっている。この軽油使用量削減への取組は、昨今の燃料費高騰による必要経費の増加に歯止めをかけることに

もなっている。

また令和2年度は、新型コロナウイルス感染症という新たな感染症の脅威にさらされた年でもあった。事業者として、この感染症の最新情報を早期に周知しつつ、社員や家族の理解のもとで感染防止対策の徹底や日々の健康観察を実施することができた。

これらは、健康経営に取り組んでいるからこそこの活動であると思う。

また全従業員の健康維持増進を図るため、毎月手作り衛生ポスターを利用した衛生教育は勿論の事、今年度もインフルエンザ予防接種全額補助を実施した。

今後も企業の存続発展のために、環境配慮・安全配慮・健康配慮に力を入れていく。

